導　入　事　例

株式会社ポーラファルマ

USB シンクライアント ゆびくら USB Beyond Client × MiNT-ACC ZERO

XP乗り換えにあわせて仮想デスクトップとシンクライアント化を実現 コスト削減を成功させつつ、セキュリティとBCP対策を強化

医療用医薬品、医薬部外品、化粧品などの研究開発型製薬企業の株式会社ポーラファルマでは、サポート切れが迫るWindows XPからの乗り換えを進めていた。それに伴いセキュリティ強化、BCP対策などを含めて、同社における「理想的なPC環境」を総合的に検討した結果、選択したのはシンクライアントとVMware Horizonによる仮想デスクトップ（Windows 7）環境への移行だった。そしてシンクライアント端末として選ばれたのが、ミントウェーブのUSBシンクライアント「ゆびくら」とゼロクライアント「MiNT-ACC ZERO」である。その目的と導入効果について、管理部 情報管理室 室長 坂本 勲氏と情報管理室 佐伯 英友氏に伺った。

Point

- 既存PCとUSBシンクライアントで仮想デスクトップの導入コスト削減
- 情報漏えい対策としてセキュリティ強化
- BCP（事業継続）対策、在宅勤務への体制を準備

セキュリティ強化、BCP対策が求められる時代の流れ

医薬品産業は、人々の健康を守り、生命に関わる重要な事業だ。しかしその研究には巨額のコストと膨大な時間がかかる。新薬が製品化されるまでに、何段階にも渡る安全性を確認してから厚生労働大臣の承認を受けるという非常に複雑、かつ長いプロセスを必要とするからだ。製造工場においても、衛生面などの環境管理が徹底される。また当然ながら創薬、治験、製造を行ううえでさまざまな機密データが扱われ、それもまた厳重な管理が求められる。

これまで同社ではWindows XPを業務に利用していたが、2014年4月9日のサポート終了に備えて、新しいPC環境への移行を検討し始めた。サポートが切れたOSを使い続ければセキュリティが保てず、マルウェアへの感染などの危険性が高まる。「機密データを扱う以上、セキュリティは放置できない問題。それは、医薬品を扱うからというのはもちろんですが、企業として当然のことです。XPからの移行計画にあわせて、セキュリティ強化、BCP対策、利用環境の標準化、管理工数の削減、PCライフサイクルやインフラ環境変化への融通性を検討しました」（坂本氏）

BCP対策の手段として自宅PCをセキュアに活用できる「ゆびくら」を採用

これらの課題に有効な手段として新PC環境は、仮想デスクトップ（VMware HorizonでのWindows 7）の採用が決定された。

医薬品を扱う以上、非常時こそ業務を継続することが必要とされる。例えば災害やパンデミックによって通勤できなくなった場合でも、シンクライアントならイン

モバイル既存PCで利用中の「ゆびくら」

User Profile

株式会社ポーラファルマ

所　在　地：〒141-0031東京都品川区西五反田8-9-5
事 業 内 容：医療用医薬品、医薬部外品、化粧品
従 業 員 数：227名
U　R　L：https://www.pola-pharma.co.jp/

ポーラ化成工業株式会社に属していたポーラ新薬研究所が独立し、株式会社科薬の販売部門と統合して、2007年に設立された新薬開発型の医薬品企業。化粧品で有名なポーラの流れを汲み、「皮膚に特化した医療用医薬品」作りに優れた技術開発力とノウハウを持っている。

株式会社ポーラファルマ
管理部
情報管理室
室長
坂本 勲 氏

株式会社ポーラファルマ
管理部
情報管理室
佐伯 英友 氏

MintWave

ターネットに接続されているPCがあればどこからでも利用できるので、BCP対策として有用だ。デスクトップPC仮想化の導入にあたり、ベンダーの選定は1社に絞らず有益なものだけをいいところ取りする方針として検討が進められた。この中で仮想デスクトップへ接続するデバイスという観点では、BCP対策はもちろん、働き方の幅を広げるツールとしていくつかの製品を比較検討の中で、ITサービスパートナーである日立システムズに相談した結果、提案・採用されたのがミントウェーブのUSBシンクライアントの「ゆびくら」だった。

「BCP担当者の自宅PCに「ゆびくら」を挿入して起動すれば、自宅PCのHDDにアクセスすることなく、社内の仮想デスクトップにアクセスできます。無償で提供される管理ツールではデバイス制御が可能であり、更に予め登録されたUSB以外はアクセスできないよう制限することで安全性が担保できます。他社のUSBシンクライアントも比較しましたが、「ゆびくら」は起動時間が早い点も採用の大きなポイントでした」（佐伯氏）

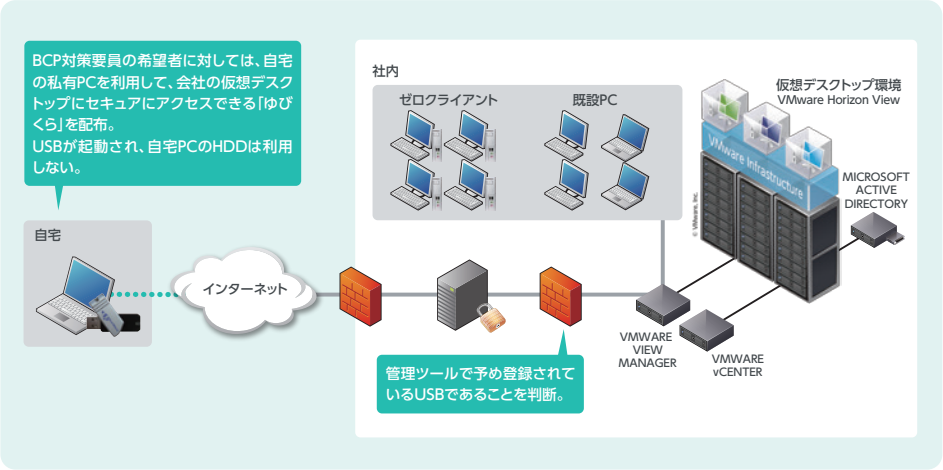
ミントウェーブ製品の「わかりやすさ、速さ、管理しやすさ」を評価して採用

ユニークなのは社内で利用する端末はWindows XP時代のPCをそのままシンクライアントとして活用した点だ。ログオンする際にAD機能とスクリプトを利用して直接仮想デスクトップに接続する方式を採用し、物理PCのデスクトップを見せないように工夫されている。Windows XPに比べればWindows 7は重いOSであり、既存PCのままでバージョンアップしたとしても処理速度が落ちるのは避けられない。しかし仮想デスクトップは処理をサーバー上で行うため、低スペックのPCであっても快適に動作する。結果として新しくPCを購入せずに済んだので、大幅なコスト削減に貢献できた。

既存PCの後継機として検討したデバイスは、ハードディスクを持たないセキュアなゼロクライアントだった。

ゼロクライアントの採用ポイントとして佐伯氏はわかりやすさ、起動の早さ、管理のしやすさを上げた。「英語表記仕様で扱い辛かった他社製品に比べ、ミントウェーブの「MiNT-ACC ZERO」は日本語表記仕様でユーザーにとっても扱い易く、実際に試用してみると起動も素早く、それに加えて分からない事は、担当営業の方に相談すれば素早く丁寧に対応していただけた点も採用の大きなポイントでした」（佐伯氏）

システム構成イメージ



ゼロクライアントの「MiNT-ACC ZERO」は、CPUもストレージもメモリーも内蔵しない、据置型の端末だ。これは古いPCが故障した際、交換用端末として順次導入されている。可動部分がないため、ハードウェアに起因するトラブルはほぼゼロになったという。

運用管理の負担も大幅に軽減された。以前は新しいPCを導入するには、いったん情報管理室で設定を済ませてから各拠点に発送していた。「ゼロクライアントの「MiNT-ACC ZERO」に変えてからは、情報管理室を経由することなく、直接各拠点に発送しています。仮想デスクトップへの接続に必要な端末設定は、簡単なマニュアルをユーザーへ配布して、ユーザー自身で設定しています。受け取った現地のユーザーが自分で端末を設置するのも簡単で、電源を入れてログインすればすぐに使えるわけです。私たち運用管理側の負荷は大幅に軽減できています」（佐伯氏）

どこにいても働きやすいPC環境構築を目指して

「ゆびくら」、「MiNT-ACC ZERO」の利便性が浸透するにつれ、ユーザーからも活用の拡大を望むニーズが高まってきたという。「現在のところ、仕事用のデスク上で使うのが主ですが、会議中や移動中なども使えるようにノートタイプのゼロクライアント端末の出現をミントウェーブ社へ大いに期待しています。（佐伯氏）

次のステップとしては在宅勤務を視野に入れた活用を考えている。現在でもBCP対策として、自宅のPCから利用できる体制はできている。しかし本格的に在宅勤務を導入するには、労働条件などIT以外にクリアしなくてはいけないハードルがある。「そのためにも、どこにいても仕事ができるPC、働きやすい環境があり、いざというときでも業務が継続できるシステム作りは今後も推進していきたい。シンクライアントと仮想デスクトップでその下地はできた」と、坂本氏はITシステム刷新の手応えを感じつつ、将来への発展を期待している。

導入された「MiNT-ACC ZERO」

MintWave
株式会社ミントウェーブ
本　社 | 〒162-0823 東京都新宿区神楽河岸1-1 セントラルプラザ6F
TEL：050-3818-0202　FAX：050-3737-2003

2015年2月 © MintWave Co., Ltd.
● 本カタログに掲載の製品仕様は、予告なく変更する場合があります。予めご了承ください。
● 本カタログに掲載されております社名および製品名は、各社の商標及び登録商標です。